

令和7年度 久世こども園自己評価書・学校関係評価書

令和8年3月18日
真庭市立久世こども園

1. 久世こども園の教育保育目標

〈教育保育目標〉

心も体も健康でたくましく、生き生きと活動する園児を目指して

〈目指す子ども像〉

- 健康で明るい園児
- 友達と仲良く遊ぶ園児
- 自分のことは自分でする園児
- 豊かな心情をもち考える園児
- 自分の考えを発表できる園児

2. 本年度の重点目標（課題）

(1) 安心できる環境の中で人との関わりを通して、言葉で伝え合う力を育てる。

- ・先生との信頼関係を基に、安心できる場で自己発揮し「話したい」「伝えたい」と思えるようにする。
- ・一人一人の話をしっかりと受け止め、話したくなる気持ちや聞いてもらう満足感が味わえるようにする。

(2) 心や体を動かして遊べる環境の工夫に努め、様々なことに主体的に関わりながら遊び込める力を育てる。

- ・遊びの充実に向けて園児の気持ちに寄り添い、様々な事柄に意欲的に関わって遊べるように援助する。
- ・職員間の連携や情報共有を密にする。

(3) 家庭との連携を深めながら生活習慣の定着を図り、心身ともに健康で安全に生活する態度を育てる。

- ・園児や保護者の気持ちに寄り添いながら、丁寧な対応を心掛ける。
- ・「ちゃれんじカード」の活用。

3. 園評価の個別評価

評価指標	考 察	園総合 評価	評価委員評価 (学校評議員 評価)
教育保育課程 指導計画 栄養計画	教育保育課程に基づき、年齢や個々の発達段階を把握し、指導計画を立案することができた。研究テーマについては、指導計画に組み込むことができなかつたため今後の課題である。	3. 3	3
行事	幼児期に経験させたい体験と園児の発達段階を捉えながら、行事の内容を検討し、実施してきた。行事ごとに園児の成長が感じられ、友達との関わりが深まる姿が多く見られた。	3. 6	4
組織・運営	責任をもって、担当業務に取り組むことができた。全職員が協力し合いながら運営に携わることができた。ただ、職員の共通理解のためにも行事の内容等を早めに協議することが必要である。	3. 2	3
学級経営	園児一人一人の個性や特性を理解し、育ちにつながるよう担任間で共通理解しながら、保育してきた。 各学年で目標を明確にし、経験を重ねながら、育ちを確認することができた。	3. 4	3

特別支援教育	園内で共通理解しながら、園全体で援助できるように進めてきた。保護者とも協力して、援助の工夫を心掛け、個々の育ちにつながった。関係機関との連携では、情報共有する機会も増えているが、それぞれの立場の差から捉え方に差があるため、密な連携が必要である。	3. 1	3
安全管理 保健指導	園舎内外の安全点検を定期的に行い、安全管理に努めてきた。園児への指導についても避難訓練や交通安全指導等で自分の命を守ることを伝えながら、指導内容を検討し実施した。	3. 5	4
研修 (資質向上)	園内外での研修を受けることで、保育内容に工夫がみられ、実践につながっている。また、個々の研修を園内研修で共有することで、園全体の質の向上につながった。	3. 2	3
情報提供 保護者・地域との連携	HP やアプリでの情報発信等年間を通して発信することができたことは、成果である。地域との連携では、園外保育で繋がりをもち、園児の興味関心につなげている。	3. 2	3
小学校との接 続・連携	小学校と合同研修会を開催し、互いの教育保育について理解する場となった。昨年度より、こども園での交流も増えている。更に交流する目的を明確にし、交流することが次へのステップだと感じている。	3. 1	3
子育て支援	職員から進んで挨拶や声掛けを行い、保護者が相談しやすい雰囲気ができている。丁寧な対応で、保護者との信頼関係も構築できた。	3. 5	4
食育の推進 (給食)	野菜の栽培や絵本の活用、献立の確認等、日々の積み重ねから食に興味をもち、苦手な食べ物にも挑戦する姿が見えてきている。	3. 3	3
食事の提供	学校給食と連携し、安心安全な給食提供に努めてきた。食物アレルギー児については、職員間で連携しながら、誤食なく過ごすことができた。	4. 0	4

4. 本年度の重点課題及び総合的な評価結果の考察等（学校関係者評価委員総合所見含）

○安心できる環境の中で、言葉で伝え合う力を育てる。

- ・園児の言葉に耳を傾け、一人一人の思いを十分に聞くこと、気持ちを受け入れることを繰り返すことで、園児の気持ちが安定し、安心して「伝える」ことができるようになってきた。
- ・「園児の気持ちに寄り添った保育」を目標に掲げ、温かい関わりを大切にした点は、高く評価できるとの意見をいただいた。このことは、園児一人一人の安心感や主体的な活動につながっていると感じる。

○遊びの環境の工夫に努め、主体的に関わりながら遊び込める力を育てる。

- ・職員が選んだ教材だけではなく、園児の姿や発達段階を考慮して環境を整えるよう工夫してきたことが、園児の好奇心を育て、自ら積極的に関わり工夫する姿に変容してきている。
- ・先生と一緒に遊ぶ中で、園児に必要な遊びの提供が多く計画されている。楽しく遊べる経験は、体も心の成長させているのではないかと意見をいただいた。

○家庭との連携を図り、健康で安全に生活する。

- ・保護者とは、丁寧に対応することを第一に信頼関係の構築に努めてきた。
- ・保護者アンケートの結果から、保護者と良い関係が築かれ、信頼されて保育を進めていることがしっかりと伝わってくる。
- ・「生活リズムチャレンジカード」については、アンケート結果を踏まえ、内容等を検討し次年度に活かしていきたい。

5. 評価結果・考察等（学校関係者評価委員総合評価）を受けての具体的改善方策等

○こども園の教育保育について

- 日々の保育を振り返り、「園児の育ちを考え、適切な援助や支援ができていたか。」を問い直している点で園としての誠実さと専門性の高さを感ずるとの評価をいただいた。
- 研究実践については、ポイントとなることを確認したり、指導計画に組み込んだりしながら日々の保育を大切に進めていきたいと考えている。

○小学校との連携について

- 合同研修会や交流会、参観を通して教育保育内容や子どもたちの姿を相互に確認できる機会となったことは成果であると感じる。架け橋期の理解を深め、有意義な連携ができるよう協議していきたい。

○保護者、地域との連携について

- 保護者アンケートからも「丁寧な関わり」「温かい雰囲気」等の感想があり、信頼されているこども園だということが分かるとの評価をいただいた。引き続き保護者の思いに寄り添った対応や適時対応することを心掛けていきたい。
- 地域との連携については、園外保育を通して地域を知ることから始めている。園児の生活を重視しながら、園にも地域の方が来ていただけるような機会を計画していきたい。

○情報発信について

- ICT を活用し、より伝わりやすい情報の工夫をしていきたい。また情報発信する上で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を照らし合わせることで幼児教育の理解に繋がるような情報になればと考えている。

○職員研修や職員連携について

- 積極的に学ぶ姿勢で研修に参加すること。研修内容を日頃の保育に取り入れ工夫をすること。更に発信すること。等で、園全体の向上に努めていきたい。
- 「助け合える職員集団」を目指し、取り組んでいる。園児の姿や援助の工夫、つぶやき等、気付いたことを伝え合いながら、園全体で全園児の育ちを支えられる集団となるよう、今後も共通理解に努め、保育していきたい。

学校評議員・園評価基準

評 価	基 準	
4	80%以上の達成度	十分達成されている
3	60%以上80%未満の達成度	概ね達成されている
2	40%以上60%未満の達成度	取り組まれているが、成果が十分でない
1	40%未満の達成度	取り組みが不十分である